

令和5年度名古屋市教育委員会第18号議案

名古屋市立内山小学校と名古屋市立大和小学校の統合について

このことについて、ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画に基づき、下記のとおり統合を決定する。

記

1 名称

別に定める。

2 位置

名古屋市千種区松軒一丁目4番9号（名古屋市立大和小学校敷地）

3 時期（予定）

令和8年4月1日

4 その他

統合に伴い、名古屋市立内山小学校と名古屋市立大和小学校は廃止する。

令和5年2月28日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（答申）

令和4年12月20日付けで諮問がありました「内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン」については、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」の趣旨を踏まえ、次の点に留意して取り組みを進めてください。

- 1 児童相互の交流活動を進めるとともに、学校と地域が交流していくという視点を持ちながら、子どもたちの成長を育んでいける教育環境を整備すること。
- 2 統合に伴い、内山学区の進学先が振甫中学校に変更されることから、経過措置として、兄弟がいる場合は今池中学校への進学も可能にするなどの柔軟な対応を検討するとともに、保護者や学校現場に混乱が生じないように、早期の情報提供に努めること。
- 3 統合による通学区域の変更に伴い、内山学区の広小路通から南側の地域は、その他の地域と小学校及び中学校が異なってくることから、子どもたちや保護者に対して十分に配慮すること。
- 4 統合校の整備や跡地活用にあたっては、将来を展望し、保護者や地域の声を聴きながら進めること。また、速やかに跡地活用の検討に着手できるよう関係部局と連携を図ること。

添付資料

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（答申）について（別紙1）

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（諮問）（別紙2）

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（答申）について

1 答申に係る配慮事項

(1) 新しい学校づくり

- ・地域活動は学区単位で行われていることから、統合にあたっては、教育と地域活動の両面から考える必要があり、地域の意見や要望を丁寧に受け止めて進められたい。
- ・児童相互の交流活動を進めるとともに、学校と地域が交流していくという視点をもちながら、子どもたちの成長を育んでいける教育環境を整備されたい。

(2) 異なる中学校ブロックの統合

- ・内山学区の進学先が統合により今池中学校から振甫中学校に変わることにより、兄弟姉妹で進学先が異なることが起こりうるので、対策として、経過措置を設けられたい。また、その際は、学校現場に混乱を生じさせないように期間を明確に示されたい。
- ・内山学区の進学先が統合により今池中学校から振甫中学校に変わるとは、制服をはじめとした進学の準備に影響を与えるので、統合決定や開校等のスケジュールは、できるだけ早く保護者へ情報提供されたい。

(3) 通学区域の変更

- ・広小路通から南側に居住する子どもたちは、通学区域が変更され、内山学区に居住する他の子どもたちとは違う動きになることから、子どもたちや保護者に対して、十分配慮されたい。

(4) 施設整備の方向性

- ・将来の児童数の減少を見据え、学校以外の用途にも活用できるような設計となるよう、保護者や地域の声を聴きながら進められたい。
- ・学校施設は平時の学区活動や災害時の避難所として学区の拠点であることや、跡地の利活用が地域に大きな影響を与えることを踏まえ、内山小学校の跡地については、地域が発展するような利活用をお願いしたい。
- ・内山小学校の跡地は好立地で貴重な公有地なので、十分な時間をかけて議論する必要があると考える。速やかに跡地活用の検討に着手できるよう、関係部局と連携されたい。

2 審議の経過

(1) 諮問及び審議の経過

ア 令和4年12月20日

「内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン」について諮問され、審議を行った。

イ 令和5年2月28日

「内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン」について、答申(案)に基づいて審議を行った。

(2) 答申

令和5年2月28日

「内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン」について答申した。

4 教教環第 18 号
令和 4 年 12 月 20 日

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志 様

名古屋市教育委員会

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

みだしのことにつきまして、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
条例（令和元年名古屋市条例第 16 号）第 2 条の規定により別添のとおり諮問
いたします。

内山小学校と大和小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

1 取り組みを行う学校

(1) 対象校：内山小学校（千種区・今池中学校ブロック）

① 選定理由

内山小学校は小規模校であり、今後も小規模校が継続する見込みであることから、取り組みを行う学校として選定する。

② 学級数・児童数（令和4年度）

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級数	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	2学級	8学級
児童数	20人	15人	22人	15人	14人	18人	6人	110人

※特支：特別支援学級

③ 未就学児数（令和4年度）

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	39人	27人	25人	27人	33人	14人	165人

④ 学級数及び児童数の見込み

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学級数	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級
児童数	104人	100人	114人	114人	111人	110人	112人
学級数	2学級	特別支援学級は設置基準が異なるため令和5年度以降は未定					
児童数	6人						

※下段は特別支援学級の学級数及び児童数を掲げた。

※学級数は35人学級を段階的に実施した場合の学級編制に基づくものである。

⑤ 沿革

明治44年9月 千種尋常高等小学校の分教場として創設

昭和22年4月 現在の学校教育法による学校として、内山小学校となる

⑥ 教育目標

明るく元気な子、進んで学ぶ子、仲良く助け合う子

(2) 相手校（関係校）：大和小学校（千種区・振甫中学校ブロック）

① 選定理由

- 内山小学校に隣接しており、小学校間の距離が最も近い。
- 内山小学校と大和小学校は同じ小学校（池内尋常小学校）より分離した経緯があり、地域的な繋がりがあある。
- 内山学区の北側に住宅地が集中しており、中学校ブロックが異なる大和小学校へは周辺の他の小学校へ通学する場合に比べ、通学距離が短くなる児童が多い。（内山学区から大和小は最長 1.5km）
- 内山学区の北部から同じ今池中ブロックの千種小学校又は千石小学校へ通学するには、広小路通、錦通、桜通を通過するとともに、繁華街を通学路に設定することとなる。（内山学区から千種小は最長 1.7km、内山学区から千石小は最長 1.8km）

② 学級数・児童数（令和 4 年度）

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	合計
学級数	2 学級	3 学級	2 学級	15 学級				
児童数	48 人	74 人	58 人	56 人	50 人	49 人	5 人	340 人

※特支：特別支援学級

③ 未就学児数（令和 4 年度）

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	52 人	49 人	56 人	59 人	51 人	60 人	327 人

④ 学級数及び児童数の見込み

区分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
学級数	13 学級	13 学級	13 学級	13 学級	13 学級	12 学級	12 学級
児童数	335 人	344 人	342 人	340 人	331 人	299 人	297 人
学級数	2 学級	特別支援学級は設置基準が異なるため令和 5 年度以降は未定					
児童数	5 人						

※下段は特別支援学級の学級数及び児童数を掲げた。

※学級数は 35 人学級を段階的に実施した場合の学級編制に基づくものである。

⑤ 沿革

昭和 12 年 11 月 池内尋常小学校（現内山小）より分離独立し、松軒尋常小学校開校

昭和 22 年 4 月 現在の学校教育法による学校として、大和小学校となる

⑥ 教育目標

心豊かでたくましく、自らの力を十分に発揮し、自信と希望にあふれる児童の育成

2 取り組みの方法等

(1) 取り組みの方法

内山小学校と大和小学校を統合し、進学先は振甫中学校とする。

(2) 統合場所

現在の大和小学校の場所を統合場所とする。

選定理由は、以下のとおり。

○児童の居住分布が、内山学区の北側及び大和学区の北側に集中していること。

○大和小学校の敷地 8,055 m²が内山小学校の敷地 7,987 m²より広いこと。

(3) 統合校の規模

① 学級数・児童数（令和4年度の児童数合算、これをもとにした学級数）

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級数	3学級	3学級	3学級	3学級	2学級	2学級	2学級	18学級
児童数	68人	89人	80人	71人	64人	67人	11人	450人

※特支：特別支援学級

② 通学区域内の未就学児数（令和4年度の未就学児数合算）

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	91人	76人	81人	86人	84人	74人	492人

③ 統合を想定した場合の学級数及び児童数の見込み

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学級数	16学級	17学級	17学級	17学級	17学級	15学級	15学級
児童数	439人	444人	456人	454人	442人	409人	409人
学級数	2学級	特別支援学級は設置基準が異なるため令和5年度以降は未定					
児童数	11人						

※下段は特別支援学級の学級数及び児童数を掲げた。

※学級数は35人学級を段階的に実施した場合の学級編制に基づくものである。

(4) 教育目標

内山小学校と大和小学校の特色やよさを承継発展させられるよう、新しい学校づくりの中で検討する。

3 通学区域等

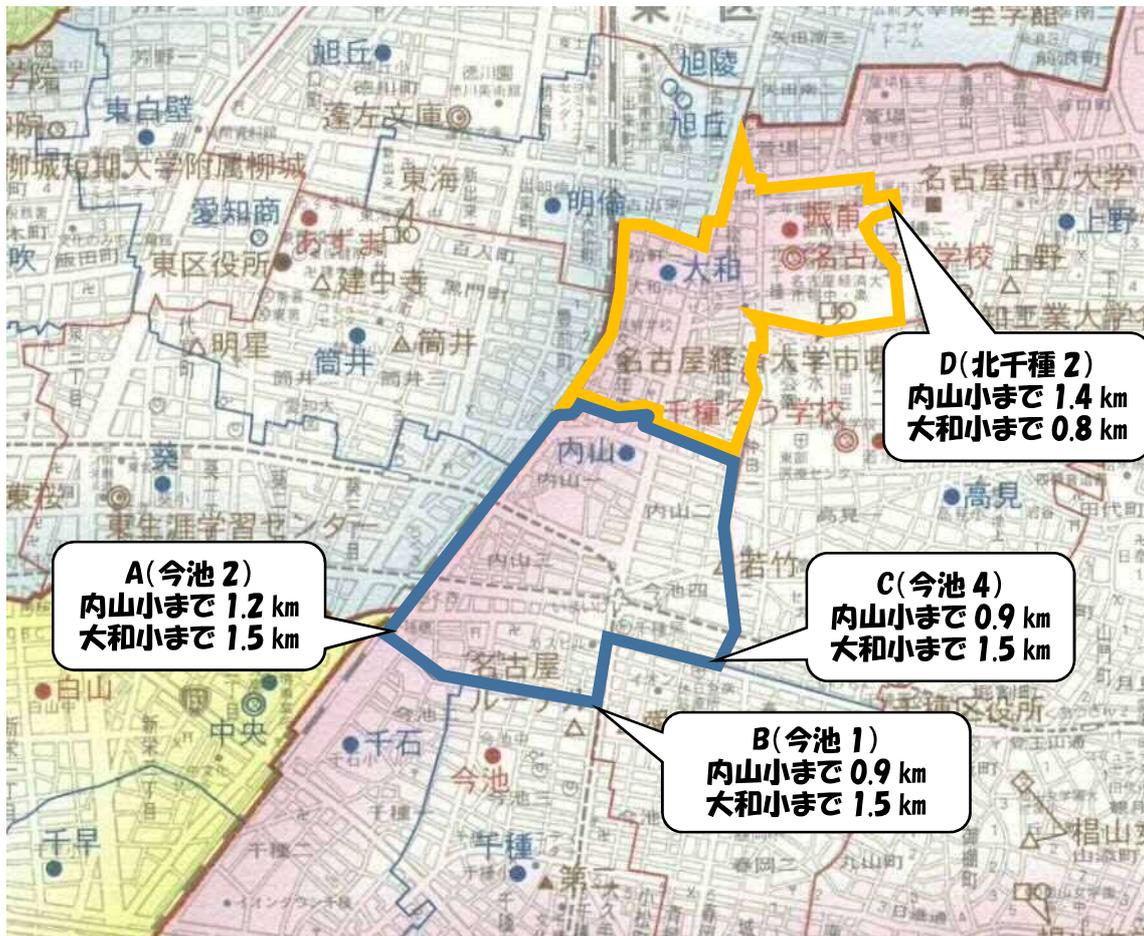
(1) 通学区域

新しい通学区域は、現在の内山小学校及び大和小学校の通学区域とする。

なお、内山学区の広小路通の南側に居住している児童については、統合校（大和小学校の場所）へ通学する場合、通学距離が延びるとともに大通り3本及び繁華街を通過することになるため、通学上の負担面・安全面の観点から、通学区域を変更し、千種小学校へ通学することとし、進学先は今池中学校とする。

(2) 通学距離

区分	現状の学区	現状の通学距離	取り組み後の通学距離
A(今池2)	内山学区	内山小まで約1.2 km	大和小まで約1.5 km
B(今池1)	内山学区	内山小まで約0.9 km	大和小まで約1.5 km
C(今池4)	内山学区	内山小まで約0.9 km	大和小まで約1.5 km
D(北千種2)	大和学区	大和小まで約0.8 km (参考) 内山小まで約1.4 km	



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製した。(東洋地図株式会社承諾済)



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製した。(東洋地図株式会社承諾済)

(3) 安全対策

統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組む。

(取り組みの例)

信号機や歩道橋の設置状況を踏まえた通学路の検討、歩行者用信号機やガードレールなどの安全施設設置の検討、注意標識設置の検討、交通指導員配置の検討、地域ボランティア等見守り活動への協力依頼や実施検討、通学練習会実施の検討等

4 施設整備の方向性

統合にあわせて、現在の大和小学校の校舎を取り壊し、新築する。
体育館についても校舎の新築にあわせて保全改修を行う。

イメージ図



5 今後のスケジュール（想定）

統合校校舎棟を新築により整備する場合、児童の安心・安全な学校生活が確保できるような学校運営等を前提とした検討が必要となる。これまでの統合校（ほのか小学校、笹島小学校（笹島中学校との併設）、なごや小学校）では、いずれも工事期間中、児童等は一時的に通学場所を変更している。

下のフローチャートは、これまでの事例を踏まえ、想定されるスケジュールである。

